

平成 22 年 2 月

症例検討会

長良店

ALS の患者さんに、モルヒネ水溶液が処方されたので、報告します。

<患者情報>

H さん 73 歳 男性

ALS（筋委縮性側索硬化症）とは、脊髄、脳幹や大脳皮質の運動神経細胞が、障害される病気です。片側の手指の細かな運動の障害が初発症状となることが多く、その後、手の筋力低下や筋委縮が認められる様になります。

定期薬

| Rp | |
|-------------|-------------|
| ラコール | 1 2 0 0 m l |
| 分 3 毎食後 | |
| リルテック錠 5 0 | 2 T |
| 分 2 朝・夕食後 | |
| コニール錠 4 | 1 T |
| 分 1 朝食後 | |
| ムコスタ錠 1 0 0 | 2 T |
| 分 2 朝・夕食後 | |

転んで動けなくなり、ベッドの上で寝たきりの状態です。胃瘻を造られ、薬は粉碎してのまれています。少し胸のあたりが苦しい時があり、モルヒネ水溶液が追加になりました。ALS の方の呼吸困難に、モルヒネが効果ありとのことで処方されました。

| Rp | |
|-----------------|---------|
| 塩酸モルヒネ錠 1 0 m g | 1 T |
| ブドウ酒 | 2 0 m l |
| 精製水 | 2 0 m l |
| 6 時間毎 | |
| 分 4 毎食後と就寝前 | 7 日分 |

塩酸モルヒネ水溶液はイギリスの準公式処方ブロンプトンカクテルに由来した処方で、モルヒネ、コカイン、アルコール、シロップおよびクロロホルムを加えた水溶液です。しかしコカインの有無が鎮痛効果に関係しないこと、アルコール味が嫌われることなどから、モルヒネの単独水溶液が使用されるようになっていきます。

服用が容易であり、モルヒネの効果に応じてベッドサイドで、次の投与量の増減が容易にできますが、調剤に手間がかかり、専用冷蔵庫の設置が必要なので病棟では保管が煩雑になります。

処方例 1

| | |
|--------|--------|
| 塩酸モルヒネ | 20 mg |
| 単シロップ | 10 ml |
| (ブドウ酒 | 10 ml) |
| 精製水 | 適量 |
| 全量 | 60 ml |

ブドウ酒は、矯味矯臭または防腐目的で加え、単シロップは苦みを緩和します。

処方例 2

福岡大学

| | |
|--------|-------|
| 塩酸モルヒネ | 10 mg |
| 単シロップ | 2 ml |
| 赤ワイン | 1 ml |
| 水を加えて | 10 ml |
| 毎6時間 | |

ただし、この処方では1週間ぐらいで細菌による濁りを生じることから、98%エタノールを1.5 ml / 20 mlの割合で添加すれば3週間は変化が現れないと言われています。